

第2章 市の現状と課題

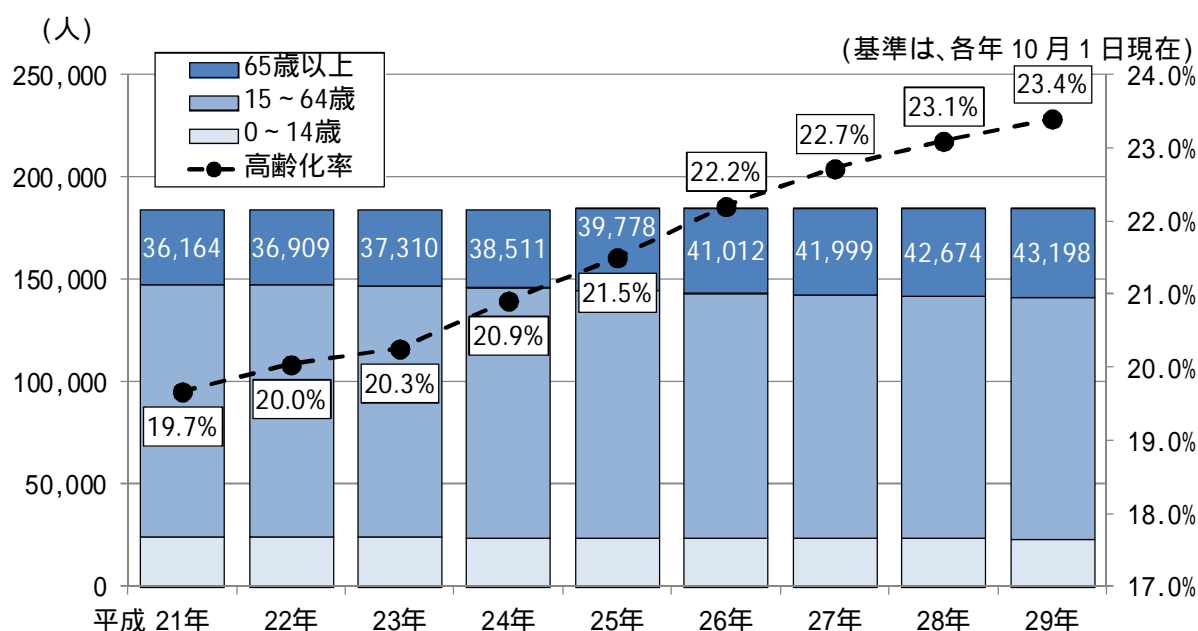
1. 推計人口

(1) 市の人口及び高齢化の推移と推計

平成23年10月1日現在の小平市の総人口は、184,218人で、平成27年をピークとして、以後、漸減傾向となると推計されます。

一方、高齢者人口は37,310人、高齢化率(65歳以上人口の総人口に対する割合)は20.3%で、どちらも今後増加していくことが推計されます。

小平市の人口及び高齢化の推移と推計



		実績			推計					
		21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年
総人口		183,889	184,216	184,218	184,393	184,600	184,724	184,889	184,798	184,616
(対前年増減数)		-	327	2	175	207	124	165	91	182
年齢3区分	0~14歳	24,465	24,299	24,175	23,996	23,855	23,700	23,563	23,422	23,366
	15~64歳	123,260	123,008	122,733	121,886	120,967	120,012	119,327	118,702	118,052
	65歳以上	36,164	36,909	37,310	38,511	39,778	41,012	41,999	42,674	43,198
高齢化率	65歳以上	19.7%	20.0%	20.3%	20.9%	21.5%	22.2%	22.7%	23.1%	23.4%
	前期高齢者(65~74歳)	10.8%	10.6%	10.3%	10.6%	10.9%	11.3%	11.4%	11.3%	11.3%
	後期高齢者(75歳以上)	8.8%	9.4%	9.9%	10.3%	10.6%	10.9%	11.3%	11.7%	12.1%

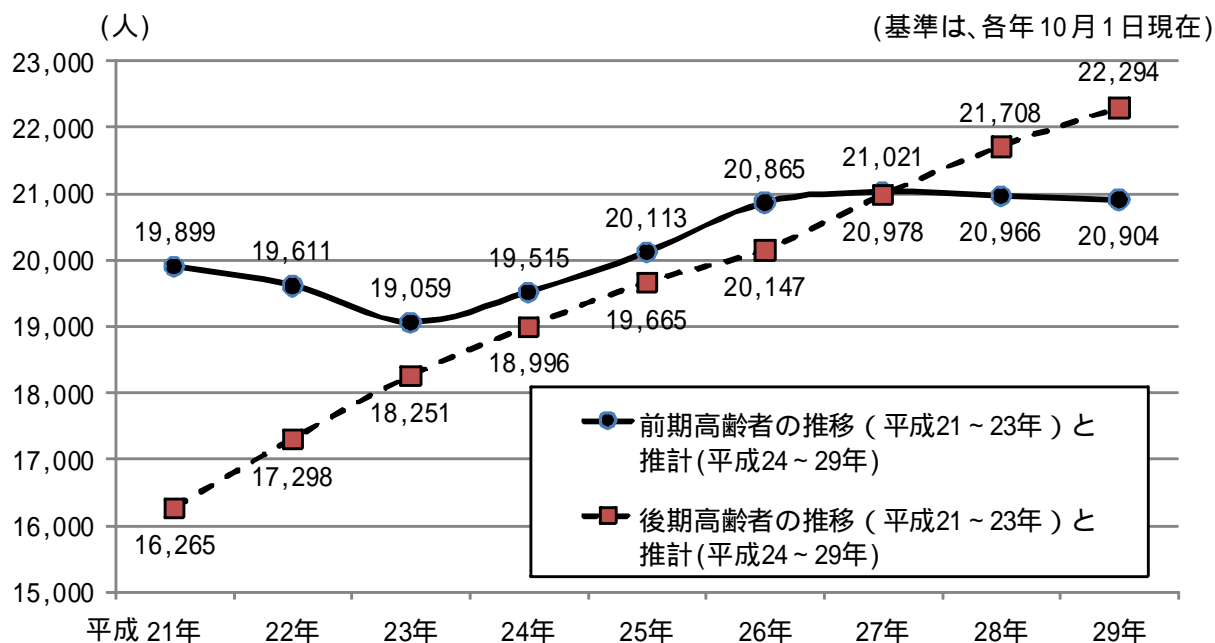
平成22年~23年の住民基本台帳及び外国人人口を基にしたコーホート法による。

コーホートとは、同年(または同期間)に出生した集団のことを意味し、それを用いて将来の人口推計を計算する方法をコーホート法という。

(2) 前期高齢者及び後期高齢者人口の推移と推計

平成23年までの推移を見ると、前期高齢者(65～74歳)と後期高齢者(75歳以上)の間に隔たりがありますが、今後、後期高齢者人口の増により、その差は縮小し、平成28年以降は後期高齢者はその割合を逆転していくことが推計されています。

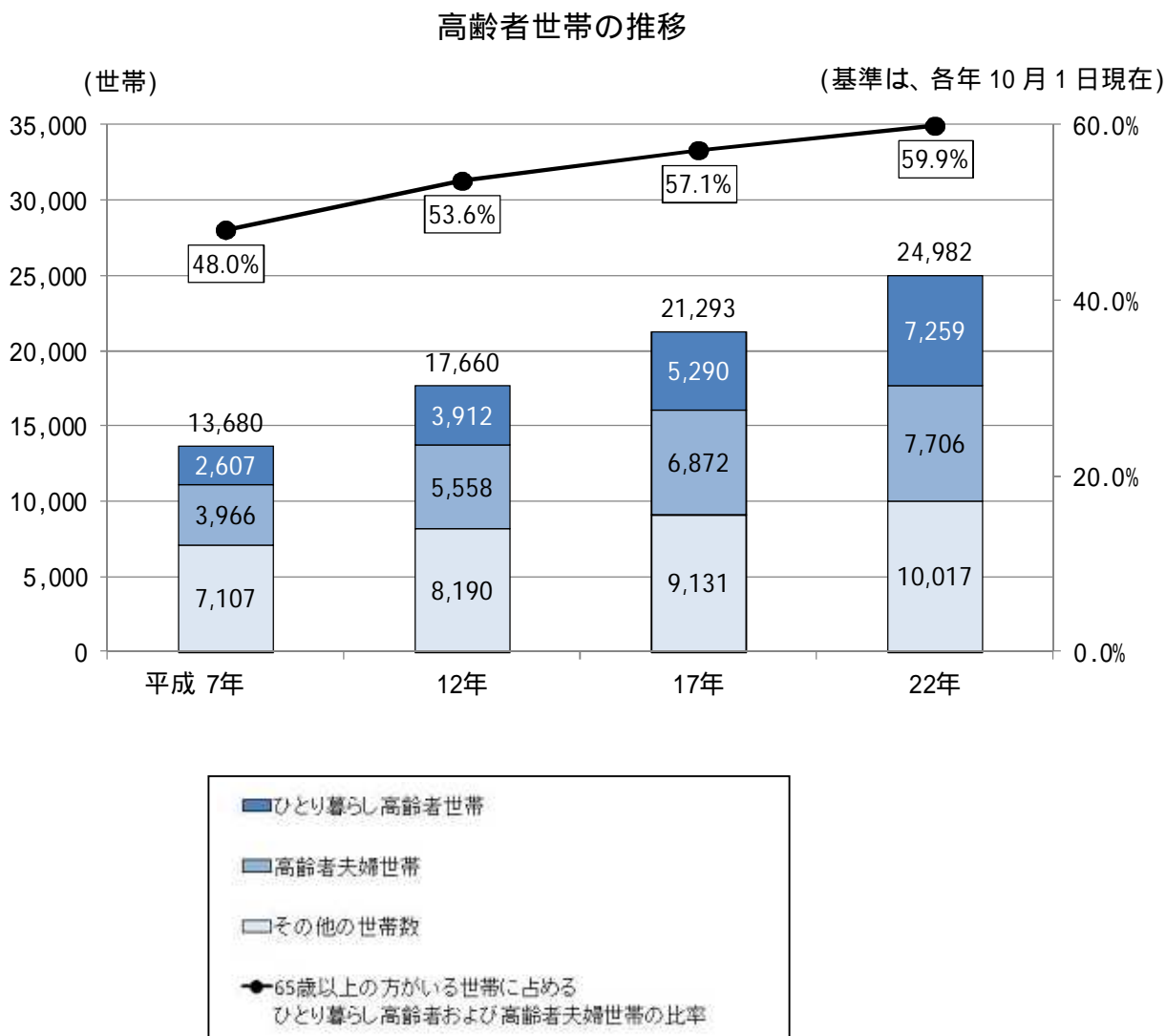
前期及び後期高齢者人口の推移と推計



平成22年～23年の住民基本台帳及び外国人人口を基にしたコーホート法による。

(3) 高齢者世帯の推移

国勢調査の結果では、65歳以上の方がいる世帯は増加傾向にあり、今後も増加し続けていくことが予想されます。なかでも、ひとり暮らし高齢者世帯と高齢者夫婦世帯の増加が大きく、平成22年には65歳以上の方がいる世帯に占めるひとり暮らし高齢者及び高齢者夫婦世帯の比率は6割まで上昇しています。



平成7年～22年の国勢調査の結果による。

高齢者夫婦世帯とは、夫65歳以上、妻60歳以上の夫婦のみの世帯のこと。

2. 高齢者施策の現状と課題

本計画の策定に先立ち、市は高齢者、要支援・要介護認定を受けている方を対象としたアンケート調査を、平成22年度に実施しました。

高齢者生活状況アンケートは、『小平市高齢者保健福祉計画・小平市介護保険事業計画』策定の基礎資料とするため、高齢者の生活状況や支援サービスの利用意向等を把握するために実施しました。

介護保険サービス利用状況実態調査は、要支援・要介護認定を受けた方のサービス利用実態、満足度、意向等を把握し、今後の介護保険サービスの基盤整備、需要と供給の適正化、新たな施策の対応等、制度運営の充実に資することを目的に実施しました。

ここでは、アンケート調査の結果と、平成21年度～23年度の各施策の取り組み状況から、小平市の高齢者施策の現状と課題について分析します。

(1) 高齢者生活状況アンケート

平成22年12月1日現在、市内に居住している65歳以上の高齢者の中から3,500人を抽出して対象としました。

配布数・・・3,500件

有効回収数・・・2,363件

有効回収率・・・67.5%

(2) 介護保険サービス利用状況実態調査

平成22年12月1日現在、要支援・要介護認定を受けている方の中から2,900人を抽出して対象としました。

配布数・・・2,900件

有効回収数・・・1,879件

有効回収率・・・64.8%

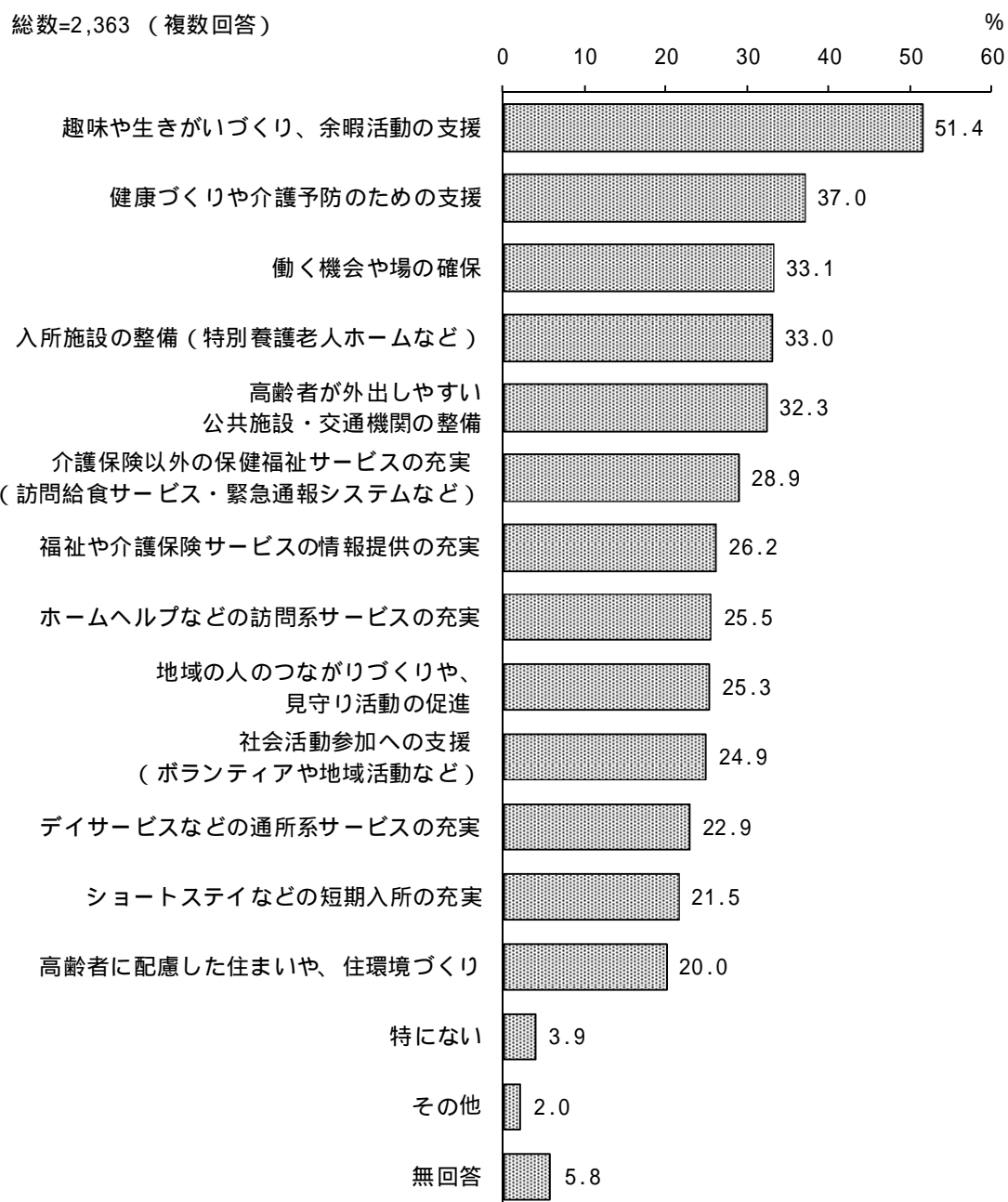
以下、

高齢者生活状況アンケートは、「高齢者アンケート」

介護保険サービス利用状況実態調査は、「介護サービス実態調査」と表記します。

重要と思う高齢者福祉の取り組み（高齢者アンケート 問 43）

重要と思う高齢者福祉の取り組みは、「趣味や生きがいづくり、余暇活動の支援」が 51.4%と最も多く、次いで「健康づくりや介護予防のための支援」が 37.0%、「働く機会や場の確保」が 33.1%、「入所施設の整備（特別養護老人ホームなど）」が 33.0%となっています。



(1) 生きがい活動と社会参加の促進

社会活動への支援

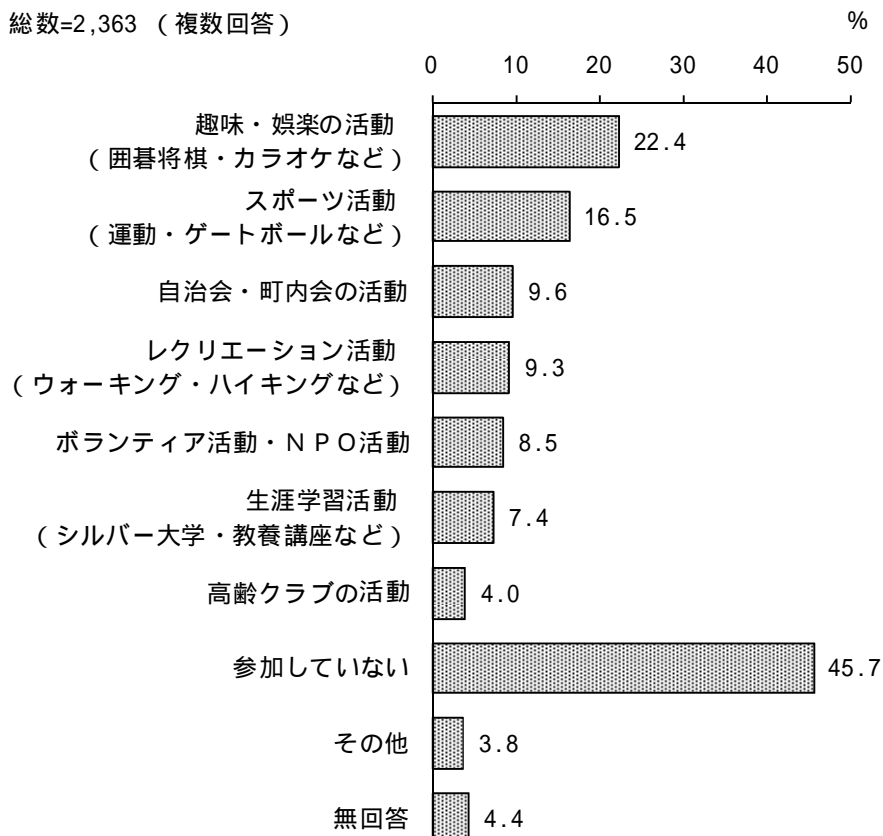
現 状	市内には、高齢者が健康で豊かな生活を送るために自主的に組織した団体として、地域ごとに高齢クラブがあり、友愛活動として地域のひとり暮らしや寝たきりの高齢者家庭への訪問活動等を行っています。地域の高齢者の活動の場の一つとして機能し、活気ある事業運営を行っています。
	高齢者活動の場として、市内には福社会館、高齢者館（ほのぼの館、さわやか館）等があり、多くの高齢者が利用しています。
課 題	団塊の世代等を取り込みながら、今後とも高齢クラブによる自主的な地域活動への支援を行う必要があります。
	引き続き、高齢者の閉じこもりの発見や防止に努めていくために、地域で高齢者を支えるネットワークづくりを進めていく必要があります。
	高齢者自身が地域社会の支え手として活躍できるような取り組みが必要です。

社会活動への参加状況（高齢者アンケート 問33）

社会活動への参加状況は、「趣味・娯楽の活動（囲碁将棋・カラオケなど）」が22.4%と最も多く、次いで「スポーツ活動（運動・ゲートボールなど）」が16.5%、「自治会・町内会の活動」が9.6%、「レクリエーション活動（ウォーキング・ハイキングなど）」が9.3%となっています。

一方、「参加していない方」が45.7%となっています。

総数=2,363（複数回答）



スポーツ・学習・余暇への支援

現 状	スポーツを通じた高齢者の健康増進に向けて、健康体操教室等、各種スポーツ教室やレクリエーションを開催しています。
	教養、趣味等、総合学習の場として高齢者学級（シルバー大学）を開催し、高齢者を対象とした学習機会の提供や学習活動への支援を行っています。
	療育音楽教室では、元気な高齢者の介護予防のための歌や楽器の演奏を行い、毎年延 800 人前後の参加者がみられます。また、高齢者に菜園の貸し出しを行う生きがい菜園では、小川町一丁目菜園に 117 区画、仲町菜園に 92 区画を設置し、生きがい活動の支援を行っています。
課 題	高齢者アンケートの結果(10 ページ参照)では、「趣味や生きがいづくり、余暇活動への支援」への要望が 5 割を超え、重要な取り組みと考える方が最も多いことから、元気高齢者の生きがい活動や余暇活動等の、より積極的な展開を図っていく必要があります。
	高齢者のより自主的、自発的な生きがい活動を支援する必要があります。

社会活動への参加意向（高齢者アンケート 問 34）

今後の社会活動への参加意向は、「趣味・娯楽の活動（囲碁将棋・カラオケなど）」が 28.1%と最も多く、次いで「レクリエーション活動（ウォーキング・ハイキングなど）」が 27.2%、「スポーツ活動（運動・ゲートボールなど）」が 21.0%、「生涯学習活動（シルバー大学・教養講座など）」が 19.6%となっています。参加したい方は合わせて約 7 割でした。

順位	項 目	割 合
1	趣味・娯楽の活動（囲碁将棋・カラオケなど）	28.1%
2	レクリエーション活動 （ウォーキング・ハイキングなど）	27.2%
3	スポーツ活動（運動・ゲートボールなど）	21.0%
4	生涯学習活動（シルバー大学・教養講座など）	19.6%
5	ボランティア活動・NPO活動	12.1%

上位 5 項目

就労への支援

現 状	高齢者の就労支援施策として、シルバー人材センター運営補助事業を実施するとともに、高齢者職業相談事業を支援し、高齢者の就業を通じて生きがいの充実と社会参加を促進しています。
	小平市シルバー人材センターでは、主な事業として、庭木の手入れ、除草や家事援助、公共関係や一般企業の仕事のほか、市内の名所を案内するシルバーガイドや学習教室等を行っています。会員数はやや減少していますが、就業率は約8割に達し、受託件数は増加しています。
	福祉会館内にある「こだいら就職情報室」に都内全域及び近隣のハローワーク求人情報を閲覧できるパソコンを設置し、ハローワーク担当者が職業の相談や紹介を行い、地域職業相談室を実施しています。
課 題	高齢者の就労については、高齢者アンケートの結果（10ページ参照）でも、「働く機会や場の提供」を求める高齢者も少なくないことから、こだいら就職情報室（ハローワーク）やシルバー人材センターと連携して支援策を今後も推進していく必要があります。

就労の有無（高齢者アンケート 問32）

就労形態は、「自営業・自由業」が11.1%と最も多く、次いで「アルバイト・パート」が7.2%、「社員・職員（常勤）」が3.9%、「社員・職員（非常勤）」が3.4%となっています。仕事をしている方は合わせて約3割でした。

	全体	自営業・自由業	社員・職員（常勤）	社員・職員（非常勤）	アルバイト・パート	シルバー人材センター 会員	内職	仕事はしていない	その他	無回答	
上段：人数	2,363	263	92	81	170	55	8	1377	51	266	
下段：構成比（%）	100.0	11.1	3.9	3.4	7.2	2.3	0.3	58.3	2.2	11.3	
年 齢	65～69歳	1096	130	69	60	122	19	1	580	24	91
		100.0	11.9	6.3	5.5	11.1	1.7	0.1	52.9	2.2	8.3
	70～74歳	746	93	19	19	43	27	5	442	16	82
		100.0	12.5	2.5	2.5	5.8	3.6	0.7	59.2	2.1	11.0
	75～79歳	270	25	2	1	4	8	1	180	4	45
		100.0	9.3	0.7	0.4	1.5	3.0	0.4	66.7	1.5	16.7
	80～84歳	133	7	1	-	-	1	-	98	5	21
	100.0	5.3	0.8	-	-	0.8	-	73.7	3.8	15.8	
85歳以上	100	6	-	-	-	-	1	69	2	22	
	100.0	6.0	-	-	-	-	1.0	69.0	2.0	22.0	
無回答	18	2	1	1	1	-	-	8	-	5	
	100.0	11.1	5.6	5.6	5.6	-	-	44.4	-	27.8	

地域との交流

現 状	高齢者の閉じこもりの発見や防止に努めていくために、ほのぼのひろば等では、地域のボランティアや民生委員児童委員と連携しています。
	小平第二小学校内で高齢者と小学生との交流を行う高齢者交流室運営事業では、毎年延 2,500 人前後の利用者があり、高齢者の介護予防と世代間交流、相互親睦の促進を図っています。
	社会福祉協議会では、福祉バザーを実施し、地域福祉の推進を図っています。また、福祉バザーの売上金等を高齢者福祉事業に役立てています。
課 題	今後とも、元気高齢者等の経験や能力を、社会貢献的な地域活動等に積極的に活用し、高齢者の生きがいづくりと、ともに生きる地域社会づくりを推進していく必要があります。
	介護予防を効果的に推進するとともに、団塊の世代の活動の場としても活用を進め、市内の地域活動を活性化させる担い手を育成することも重要です。
	高齢者と様々な世代が交流できるような仕組みづくりが望まれます。

家族・親族以外との関わり（高齢者アンケート 問 31）

家族・親族以外との関わりについては、「友人・知人」が 69.9%と最も多く、次いで「近所の人」が 55.9%、「自治会・町内会の役員」が 12.8%となっています。「人との関わりはあまりない」は 6.8%でした。

順位	項目	割合
1	友人・知人	69.9%
2	近所の人	55.9%
3	自治会・町内会の役員	12.8%
4	ボランティア・NPO関係者	6.0%
5	ケアマネジャー	2.5%
	人との関わりはあまりない	6.8%

上位 5 項目

(2) 暮らしやすくするための環境整備

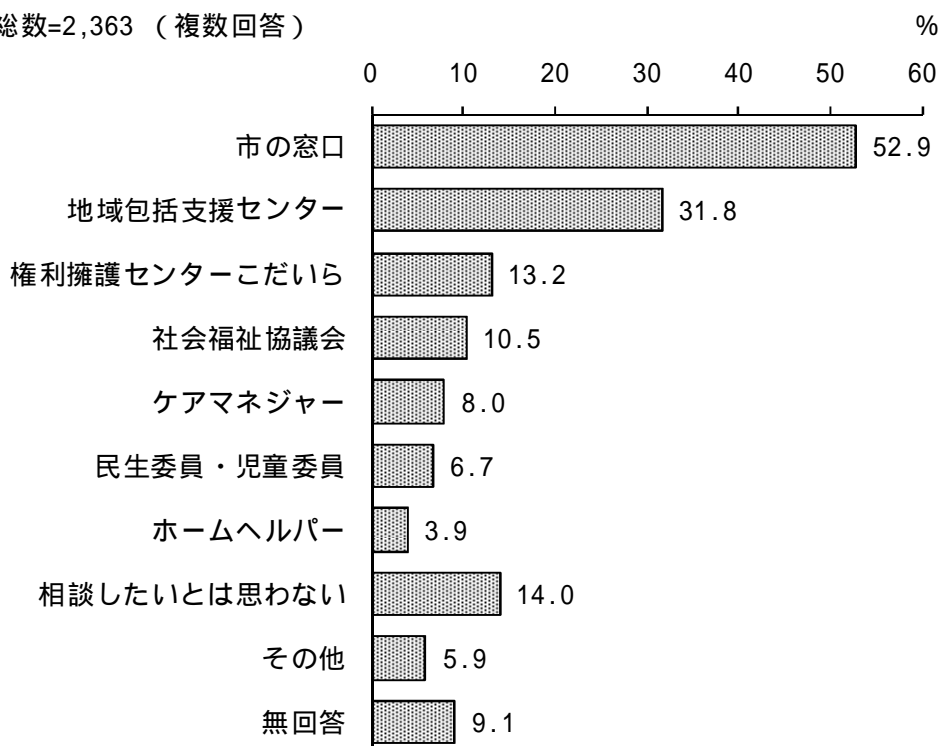
相談体制の推進

現 状	市内に地域包括支援センターが4か所、それぞれの出張所が4か所、合計8か所の相談窓口がありますが、高齢者数の増加に伴い相談件数も増加しています。また、高齢者虐待等の専門的な関わりが必要とされる高齢者も増加しています。
課 題	地域包括支援センターの相談体制の充実と専門性の向上、関係機関との一層の連携強化が必要です。

福祉に関する相談の意向（高齢者アンケート 問24）

希望する相談先は、「市の窓口」が52.9%と最も多く、次いで「地域包括支援センター」が31.8%、「権利擁護センターこだいら」が13.2%、「社会福祉協議会」が10.5%となっています。

総数=2,363（複数回答）



広報活動の推進

現	高齢者事業・活動情報については、市報や、「社協だより」などの機関紙等の配布のほか、「高齢者のしおり」、小平市ホームページ、社会福祉協議会ホームページ等からの情報発信を行っています。
状	高齢者アンケートの結果では、高齢者が福祉情報を入手する手段として、「市報こだいら」が7割を超え、「市のパンフレット（「高齢者のしおり」など）」も、「テレビ・ラジオ」や「新聞・雑誌・書籍」と並んで3割以上を占めています。「インターネット」については1割未満の活用状況でした。
課 題	今後は、ポスターやチラシを活用した高齢者に適した情報提供や、災害等の緊急時における確実な情報伝達の方法を検討する必要があります。また、小平市ホームページ内容の充実、社会福祉協議会における活動内容の周知を図っていく必要があります。

福祉情報の入手方法（高齢者アンケート 問21）

福祉情報の入手先は、「市報こだいら」が77.7%と最も多く、次いで「市のパンフレット（「高齢者のしおり」など）」が39.0%、「新聞・雑誌・書籍」が38.2%、「テレビ・ラジオ」が32.5%となっています。

順位	項目	割合
1	市報こだいら	77.7%
2	市のパンフレット（「高齢者のしおり」など）	39.0%
3	新聞・雑誌・書籍	38.2%
4	テレビ・ラジオ	32.5%
5	友人・知人	18.1%

上位5項目

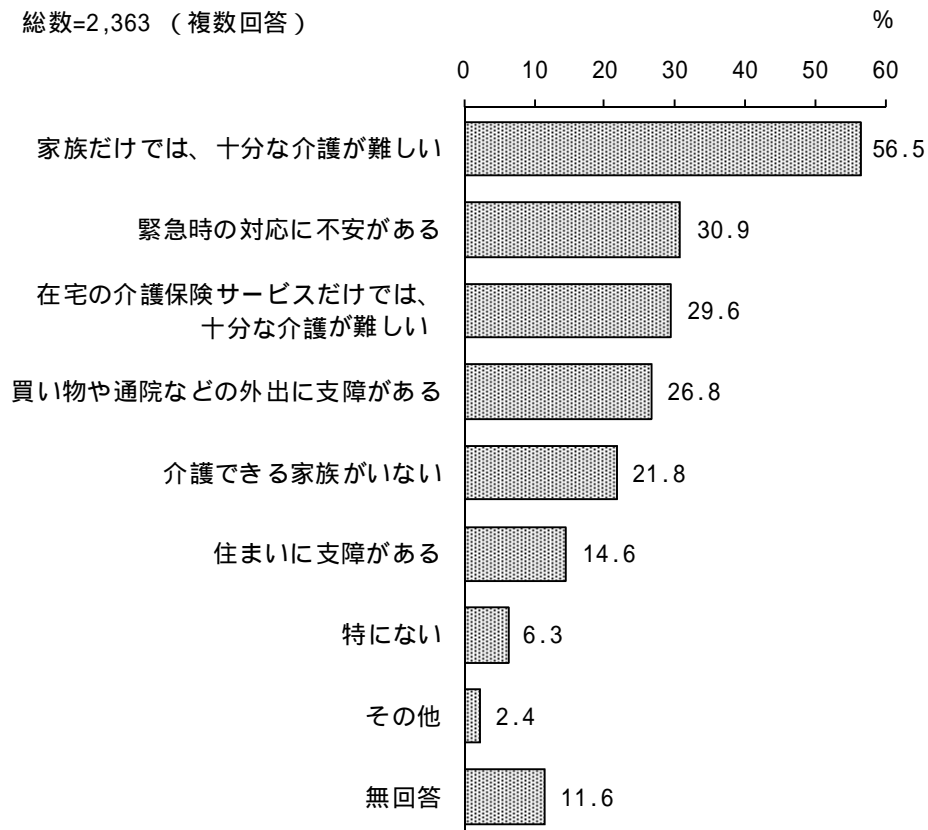
生活環境の整備

現 状	高齢者が住み慣れた地域で自分らしい生活を続けて行けるように、介護保険サービスの対象とならない方への生活支援ヘルパー事業等の自立援助サービスを行っていますが、サービスの利用者は減少しています。
	市内NPO法人や市民団体が家事援助・介護・移送サービスを実施しています。家事援助・介護サービスでは在宅福祉の増進を図ることを目的としています。移送サービスでは、要介護認定者や身体障がい者等を対象に通常の公共交通機関で足りない部分を補い、社会参加の促進を図っています。
課 題	生活支援ヘルパー事業などの生活を支援するためのサービスが利用されるように、事業の周知を行う必要があります。
	いずれの団体も限られた予算のなかで運営しているため、今後も十分な運営ができるよう支援策を考えていくとともに利用者のニーズを的確に把握する必要があります。

自宅で暮らし続けるための課題（高齢者アンケート 問42）

自宅で暮らし続けるための課題は、「家族だけでは、十分な介護が難しい」が56.5%と最も多く、次いで「緊急時の対応に不安がある」が30.9%、「在宅の介護保険サービスだけでは、十分な介護が難しい」が29.6%、「買い物や通院などの外出に支障がある」が26.8%となっています。

総数=2,363（複数回答）



住環境の整備

現 状	ひとり暮らし高齢者や高齢者のみの世帯が増加していく中で、自宅（在宅）で安心して生活できるよう、緊急通報システムや高齢者火災安全システム等の事業を実施しています。
	緊急通報システムに、東京消防庁へつながる消防型のほか、民間事業者につながる民間型を導入し、疾病を抱える高齢者の体調の急変時に備えています。
	住宅に困窮する高齢者に対する高齢者住宅（シルバーピア）の運営を行っています。
	介護保険の対象とならず、小平市が行なうサービス利用判定を受けた65歳以上の日常生活の動作が困難な高齢者を対象に、手すり等の住環境を整備するための住宅改修の費用を一定の限度額まで助成しています。
課 題	今後も住居内環境において、安全上の課題や、緊急時の連絡等に課題を抱えるひとり暮らし高齢者等の増加が予想されます。そのため、自宅で安心して暮らせる設備の充実とともに、それぞれの健康状態や要介護度に応じた各種の生活支援サービスなどが提供できる住宅が求められています。

住まいについて困っていること（高齢者アンケート 問20）

住まいについて困っていることは、「建物の老朽化」が13.6%と最も多く、次いで「階段の昇り降り」が9.4%、「手すりがない」が5.9%、「家の改修ができない」が5.6%となっています。

順位	項目	割合
1	建物の老朽化	13.6%
2	階段の昇り降り	9.4%
3	手すりがない	5.9%
4	家の改修ができない	5.6%
5	家賃やローンなどの住宅費	5.2%

上位5項目

福祉のまちづくりの推進

現 状	平成21年に小平市福祉のまちづくり条例の改正を行い、ユニバーサルデザインの理念に基づき、福祉のまちづくりを推進しています。
課 題	高齢者アンケートの結果(10ページ参照)では、「高齢者が外出しやすい公共施設・交通機関の整備」への要望が3割にのぼることから、施設のバリアフリー化やユニバーサルデザインへの配慮を進めるとともに、移動制約のある高齢者に対する移動支援の充実が必要です。

外出の目的(高齢者アンケート 問28)
 外出の目的は、「買い物」が72.5%と最も多く、次いで「散歩」が46.9%、「友人・知人との交流」が36.9%、「通院」が36.6%となっています。

順位	項 目	割 合
1	買い物	72.5%
2	散歩	46.9%
3	友人・知人との交流	36.9%
4	通院	36.6%
5	余暇活動	32.0%

上位5項目

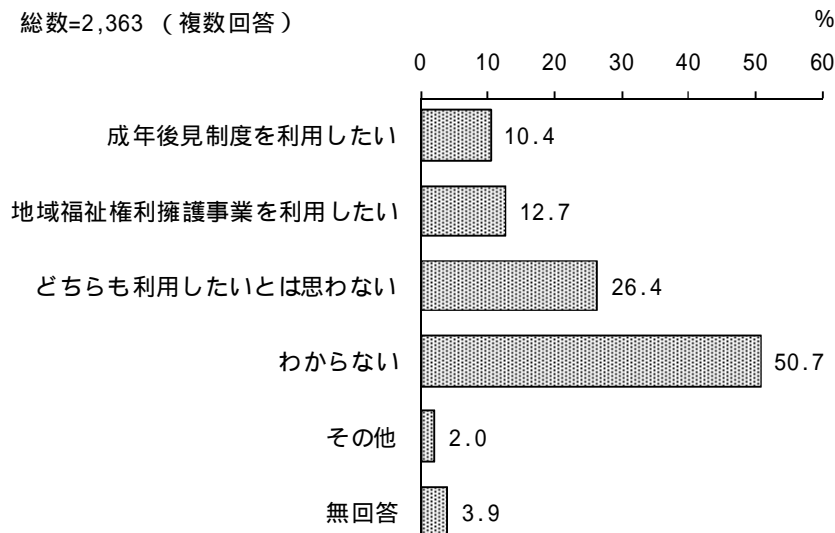
権利擁護システムとサービスの質の向上

現 状	判断能力が不十分であるために契約行為や金銭管理等に支障がある認知症高齢者等を支援する成年後見制度、地域福祉権利擁護事業（日常生活自立支援事業）を推進していくために、成年後見制度推進機関として、平成19年度から「権利擁護センターこだいら」（社会福祉協議会）を設置しています。
	高齢者アンケートの結果では、権利擁護センターの認知度が約4割でした。
	平成18年4月に「高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律（以下、「高齢者虐待防止法」とする。）」が施行され、小平市においても、地域包括支援センターを中心に、高齢者虐待の早期発見・防止に努めています。
	虐待や介護者の急な不在等で在宅が困難となった高齢者の安全確保のために、介護保険施設等を利用した高齢者緊急一時保護事業を平成21年度に開始しました。
課 題	成年後見制度等の利用の推進を図っていくために、成年後見人等の支援、地域ネットワークの活用、運営委員会の設置、社会貢献型後見人等の養成や、普及啓発を行うことが重要です。
	今後とも、高齢者虐待防止に向けて、小平市、地域包括支援センター、介護保険サービス事業者、社会福祉協議会、警察等の関係機関の連携を強化するとともに、地域住民による見守り体制の充実を図っていく必要があります。
	高齢者虐待の早期発見・防止のためにケアマネジャーや地域包括支援センターなどの関係者が虐待について知見を深める必要があります。
	介護保険施設等を利用した高齢者緊急一時保護事業により緊急時の高齢者の保護を行ってききましたが、軽度の医療が必要とされる場合の受け入れ先の確保を図っていく必要があります。

成年後見制度等の利用意向（高齢者アンケート 問26）

「成年後見制度を利用したい」は10.4%、「地域福祉権利擁護事業を利用したい」は12.7%となっています。

総数=2,363（複数回答）



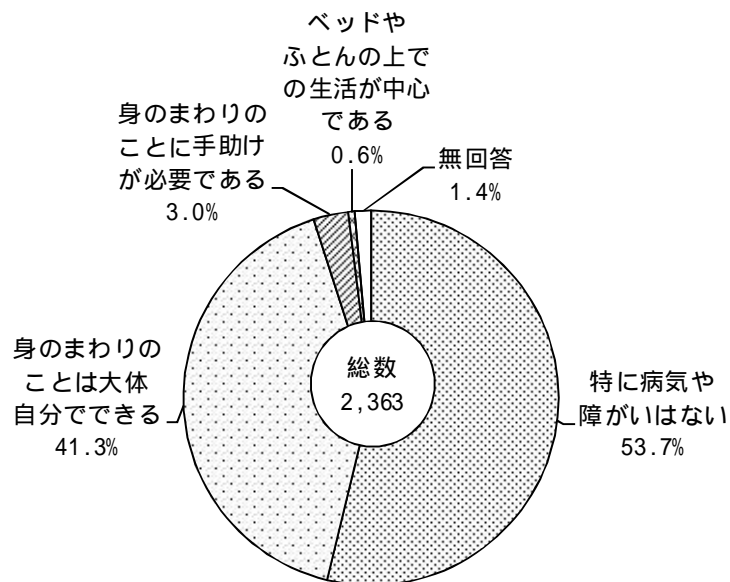
(3) 健康づくりの推進

保健サービスの推進

現 状	高齢者が自らの健康への関心を持ち、主体的に楽しみながら健康づくりを継続することができるよう、各種事業を行っています。健（検）診では、疾病の早期発見、早期治療に努め、健康教室・健康相談では、健康の保持・増進をめざし、また、健康づくりに関する知識の普及・啓発活動なども行い、健康づくりの推進に取り組んでいます。
課 題	高齢者アンケートの結果（10ページ参照）では「健康づくりや介護予防のための支援」への要望は4割近くと高いことから、今後も、保健サービスに関する関係機関との連携を強化し、生涯を通じた健康づくりができるような取り組みを進めていく必要があります。

健康状態（高齢者アンケート 問8）

健康状態は、「特に病気や障がいはない」が53.7%と最も多く、次いで「病気や障がいがあるが、身のまわりのことは大体自分でできる」が41.3%、「病気や障がいがあり、身のまわりのことに手助けが必要である」が3.0%となっています。



医療の推進

現 状	70歳から75歳未満で国民健康保険に加入している方には高齢受給者証、75歳（一定の障がいがあり広域連合の認定を受けた方は65歳）以上の方には後期高齢者医療被保険者証を交付します。これにより、窓口で支払う医療費の一部負担金の割合は1割（現役並み所得者は3割）となり、患者の負担が軽減されます。
	被保険者に対し人間ドックの受診料の一部補助、保養施設の宿泊費の一部助成等を行うことにより、疾病の早期発見と予防及び健康の保持増進を図っています。
	療養病床の再編成や高齢者数の増加により、医療と介護を受けながら地域で生活を続ける高齢者が増加しています。
課 題	広報やパンフレット、ホームページなどを活用し、引き続き制度の周知に努めていく必要があります。
	生活習慣病を予防するため、今後とも特定健診・保健指導等を推進していく必要があります。
	高齢者の生活を支えるために医療と福祉の連携を進める必要があります。

通院や医療に関して困っていること（高齢者アンケート 問11）
 通院や医療に関して困っていることは、「医療費の負担が大きい」が19.9%と最も多く、次いで「専門的な医療を受けられる機関が身近にない」と「医療機関に関する情報が少ない」がそれぞれ10.5%となっています。

順位	項目	割合
1	医療費の負担が大きい	19.9%
2	専門的な医療を受けられる機関が身近にない	10.5%
	医療機関に関する情報が少ない	
4	往診に来てくれる医療機関が身近にない	7.1%
5	通院の際の交通手段で困っている	6.6%

上位5項目

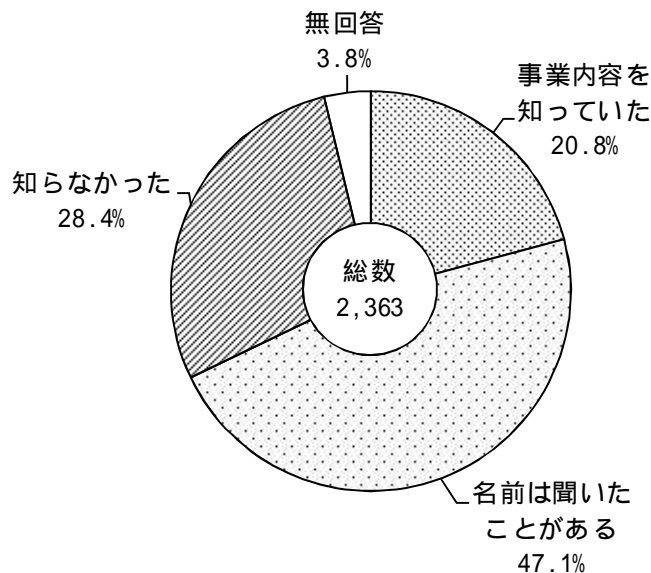
(4) 思いやりのある地域づくりの推進

ボランティア活動の育成・支援

現 状	社会福祉協議会ボランティアセンターでは、ボランティアをしたい方と、ボランティア活動協力を望んでいる方との架け橋となり、ボランティア活動に役立つ講座や情報提供などを、様々な市民団体と連携して行い、高齢者や障がい者・障がい児、子ども等の地域生活に関する活動や、施設での活動支援を行っています。
課 題	<p>福祉分野はもとより、学校教育や生涯学習分野等、地域の多様な活動分野と連携し、市民が取り組むボランティア活動や市民活動を推進し支援していく必要があります。</p> <p>ボランティア活動の経験のない高齢者でも始めることのできる、地域でのボランティア活動へ導く仕組み作りが必要です。</p> <p>地域の新たなボランティア人材として、地域の中で専門的な資格を持った高齢者などの潜在的な人材の掘り起こしも必要です。</p>

ボランティアセンターの認知度（高齢者アンケート 問35）

ボランティアセンターについて、「事業内容を知っていた」が20.8%、「名前は聞いたことがある」が47.1%、「知らなかった」が28.4%となっています。



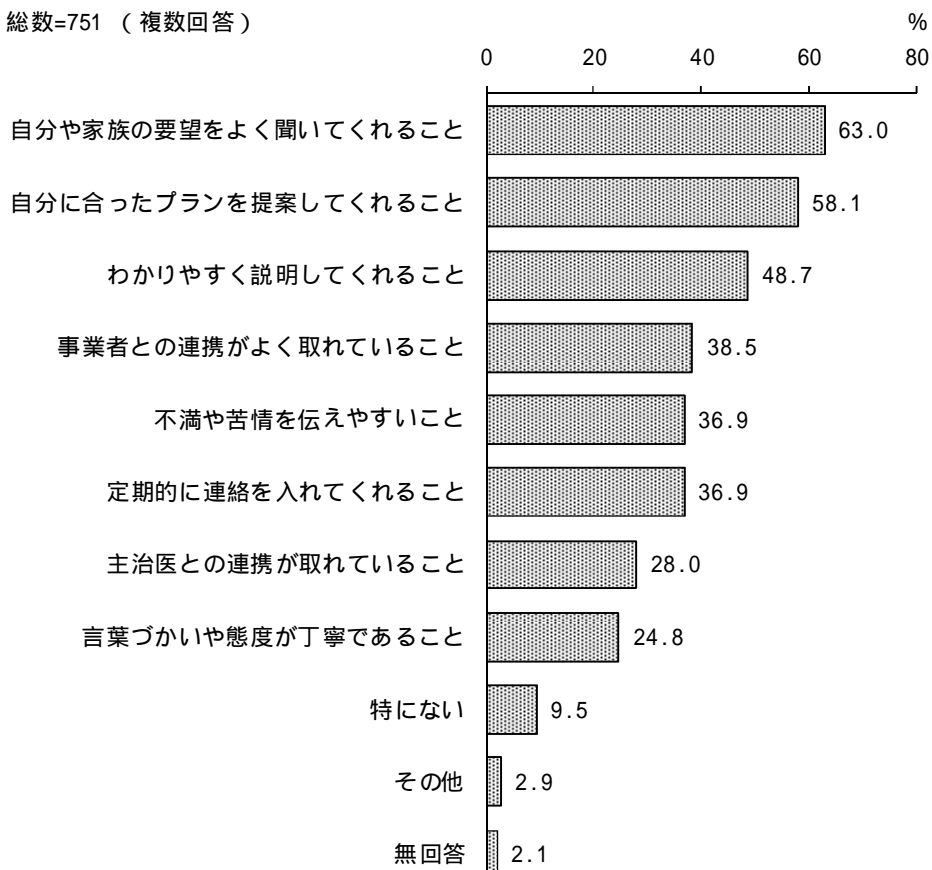
福祉人材の育成・支援

現 状	介護保険サービスの利用者の状態に合った、適切なケアプラン（介護サービス計画）の作成につながるように、ケアマネジャーに対してケアプラン指導研修を行っています。
	ケアマネジャーなどを対象にした福祉人材養成講座を開催し、専門職の資質の向上に努めています。
	認知症について正しく理解し、認知症の方やその家族に対する見守りなどの支援をしてもらうために、一般市民、民生委員児童委員や市職員を対象に、認知症サポーター養成講座を行っています。
	新たに健康福祉部に配属された職員を対象に市内福祉施設での研修を実施し、研修での体験を通して福祉への理解を深めています。
課 題	早朝、夜間、土曜・日曜に勤務できる介護・看護の人材が不足しています。
	身近な市内の公共施設を利用して、受講者の声を聞きながら、実務に即した講座を定期的開催していく必要があります。

ケアマネジャーへの希望（介護サービス実態調査 問20）

ケアマネジャーへの希望については、「自分や家族の要望をよく聞いてくれること」が63.0%と最も多く、次いで「自分に合ったプランを提案してくれること」が58.1%、「わかりやすく説明してくれること」が48.7%となっています。

総数=751（複数回答）



見守り体制の充実

現 状	民生委員児童委員が高齢者の実態把握に努めています。地域の高齢者等の相談・支援業務を担い、関係機関へつなげるなど地域福祉の向上のための活動を行なっています。
	地域包括支援センターが見守り事業を実施し、定期的な見守りや高齢者との関係づくりに努めています。
課 題	高齢者個々の状態に適した見守りが行えるよう体制を整えることが求められています。
	見守りが必要かどうかについては周囲の判断と自身の判断にずれが生じやすく、閉じこもりの方など、地域包括支援センターや民生委員児童委員が把握するのが、難しい場合があります。
	民生委員児童委員、地域包括支援センター、社会福祉協議会等の関係機関が、情報共有等の連携を強化し、地域の見守り活動の充実を図っていくことが必要です。

見守りや声かけの希望（高齢者アンケート 問22）

希望する内容は、「緊急通報システムによる見守り」が18.5%と最も多く、次いで「近所の人や地域のボランティアによる見守り」が9.4%、「（社会福祉協議会による）電話訪問」が5.8%、「地域包括支援センター職員による見守り」が5.3%となっています。

順位	項目	割合
1	緊急通報システムによる見守り	18.5%
2	近所の人や地域のボランティアによる見守り	9.4%
3	電話訪問	5.8%
4	地域包括支援センター職員による見守り	5.3%
5	民生委員・児童委員による見守り	4.0%

上位5項目

支援体制の整備

現 状	平成21年度から、保健、医療及び福祉に関するサービスの実施機関、地域組織並びに関係公共機関が連携して、地域保健福祉推進会議を開催しています。
課 題	小平市における地域保健福祉活動の推進に関する協議を行うことが、必要です。 高齢者に関する地域の課題の把握や、関係機関の情報交換の促進と協働体制を構築するための会議の設置が求められています。

(5) 介護保険事業の推進

居宅サービス（介護・介護予防）

現 状	要介護等認定者数は毎年増加しており、平成20年度から平成22年度までの3年間で約1,000人の増加となっています。
	居宅サービスの利用者数も年々増加しており、平成20年度から平成22年度までの3年間で約700人の増加となっています。
課 題	要介護等認定者の数が、75歳以上の後期高齢者の増加に伴い、平成20年度を境に、それまでの対前年度比3%程度の伸びから平成20年度は5%の伸び、平成21年度は4%台、そして平成22年度は9%台と大幅な伸びとなっています。この傾向はこれからも一層進むものと想定されます。
	<p>介護サービス実態調査では、今後新たに利用したいサービスとして、「訪問介護」、「通所介護」、「福祉用具の貸与・購入費支給」、「短期入所生活介護」などが、また、必要な介護者支援については、「緊急時の対応についての支援」、「短期入所の充実」、「休養や息抜きの機会の確保」、「訪問系サービスの充実（ホームヘルプなど）」が多くなっています。</p> <p>このことを踏まえて、今後、介護保険サービスの量的な整備と質の向上を図るとともに、介護従事者の処遇改善等について、国、東京都への働きかけが必要です。</p>

必要な介護者支援（介護サービス実態調査 問14）

必要な介護者支援については、「緊急時の対応についての支援」が45.1%と最も高く、「短期入所（ショートステイ）の充実」が33.3%、「休養や息抜きの機会の確保」が32.7%、「訪問系サービスの充実（ホームヘルプなど）」が27.1%となっています。

順位	項目	割合
1	緊急時の対応についての支援	45.1%
2	短期入所（ショートステイ）の充実	33.3%
3	休養や息抜きの機会の確保	32.7%
4	訪問系サービスの充実（ホームヘルプなど）	27.1%
5	自宅で受けられる医療的ケア	25.3%

上位5項目

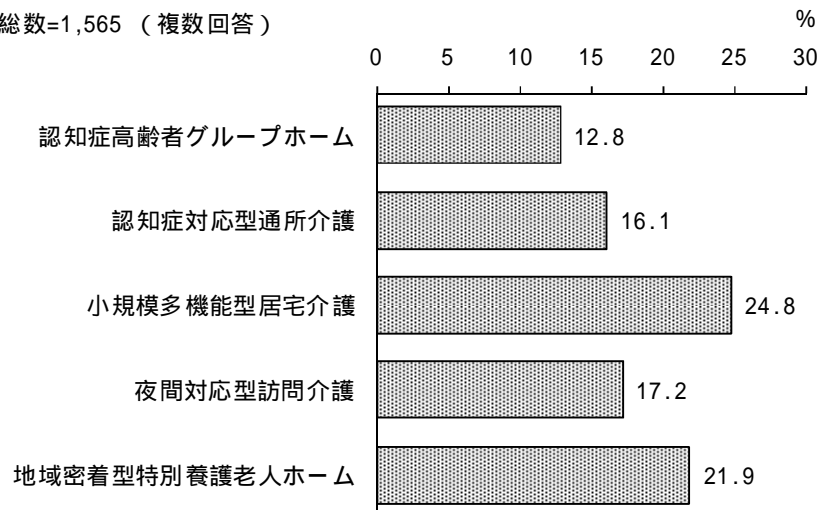
地域密着型サービス（介護・介護予防）

現 状	平成18年度の介護保険制度改正で新たに創設された地域密着型サービスについては、高齢者が住み慣れた地域での生活を継続できるよう各圏域におけるサービス拠点の確保に努めています。
	平成23年度末現在で、整備中のものを含めると、認知症対応型共同生活介護（認知症高齢者グループホーム）が西圏域に3か所、中央西圏域1か所、中央東圏域に3か所、東圏域に1か所、認知症対応型通所介護が西圏域に1か所、中央西圏域に2か所、中央東圏域に2か所、東圏域に2か所、小規模多機能型居宅介護が西圏域に1か所、中央西圏域に1か所、中央東圏域に2か所、東圏域に1か所、夜間対応型訪問介護が市内に1か所、地域密着型特別養護老人ホームが東圏域に1か所となっています。
課 題	今後も必要なサービス量を確保するとともに適正なサービスの提供が行なわれるように、事業者に対して指導を行なう必要があります。
	高齢者が住み慣れた地域で安心して生活を続けていくために、医療機関をはじめとする関係機関との連携を強めていく必要があります。

地域密着型サービスの利用意向（介護サービス実態調査 問30）

今後利用したい地域密着型サービスとしては、「小規模多機能型居宅介護」が24.8%と最も多く、次いで「地域密着型特別養護老人ホーム」が21.9%、「夜間対応型訪問介護」が17.2%、「認知症対応型通所介護」が16.1%、「認知症高齢者グループホーム」が12.8%となっています。

総数=1,565（複数回答）



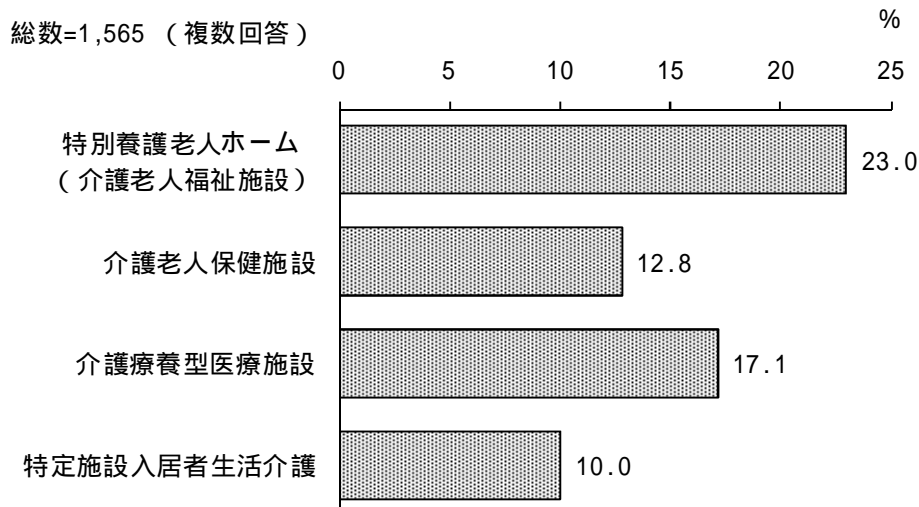
施設サービス

現 状	<p>常時介護を必要とする方の中には、様々な在宅サービスの充実を図ったとしても、自宅で暮らすことが困難な方がいて、依然施設入所を希望されている方が多数に上っています。</p>
	<p>第4期計画では、介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）、介護老人保健施設については、市内及び市外の施設事業者に対して、小平市民の入所枠の維持及び拡大を働きかけました。特に、施設の改築等の予定がある場合は特別養護老人ホームの待機者解消のための入所枠の拡大を働きかけました。その結果、介護老人福祉施設1か所で改築に伴う増床と、介護老人保健施設については、新たに1か所整備しました。</p>
	<p>小平児童相談所跡地を活用して、地域密着型介護老人福祉施設を整備しました。</p>
課 題	<p>依然、介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）の入所待ちをされている方が多数います。今後とも、施設サービスと在宅サービスの双方の基盤整備をバランスよく図っていく中で、介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）については、市内及び市外の施設事業者に対して、小平市民の入所枠の維持及び拡大を働きかけていく必要性があります。</p>

今後新たに利用したいサービス（施設系サービス）

（介護サービス実態調査 問29）

「特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）」が23.0%と最も多く、次いで「介護療養型医療施設」が17.1%、「介護老人保健施設」が12.8%、「特定施設入居者生活介護」が10.0%となっています。



地域支援事業

A 介護予防事業

現 状	生活機能の低下を実感されている方を対象に、介護予防教室、訪問型介護予防事業を実施しています。また、介護予防の普及啓発を目的に介護予防講座を実施しています。
	認知症予防の知識を身につけ実践していただくために、認知症予防に関する教室や講演を行っています。
	地域の人との交流が介護予防につながることを目指し、介護予防見守りボランティア事業を平成23年度からモデル事業として開始しました。
課 題	生活機能の低下状態に合った介護予防の取り組みが続けられるよう地域の体制を整えることが必要です。
	地域で開催されている介護予防講座等については、1回あたりの参加者数にばらつきがあるため、多くの方に利用していただけるよう周知方法や開催場所の検討が必要です。
	基本チェックリストと生活機能評価を併用し介護予防が必要な方を把握していますが、より効率的に把握するための検討が必要です。

介護予防事業への参加意向（高齢者アンケート 問15）

「是非参加してみたい」、「機会があれば参加してみたい」という回答は、「運動機能の向上（膝痛・腰痛予防）」が合わせて39.6%と最も多く、次いで「生活習慣病の予防」が36.6%、「認知症予防」が36.3%、「食生活（栄養等）の改善」が28.5%となっています。

順位	項目	割合
1	運動機能の向上（膝痛・腰痛予防）	39.6%
2	生活習慣病の予防	36.6%
3	認知症予防	36.3%
4	食生活（栄養等）の改善	28.5%
5	高齢期のうつ予防	24.1%

上位5項目。

「是非参加してみたい」、「機会があれば参加してみたい」の合計

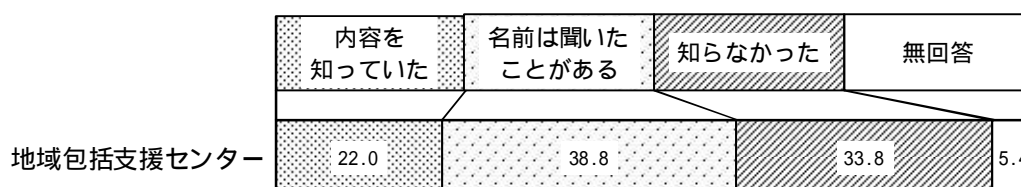
B 包括的支援事業

現 状	平成18年度の介護保険制度改正により、高齢者の生活を総合的に支えていくための拠点として、地域包括支援センターを設置しています。
	地域包括支援センターについては、市内を西圏域、中央西圏域、中央東圏域、東圏域の4圏域に分け、各圏域に1か所ずつ設置し、さらに、地域包括支援センターの出張所を各圏域にそれぞれ1か所ずつ整備しています。
	地域包括支援センターの職員体制の確保・充実を図るため、順次、職員を増員しています。
	平成19年度に行なった高齢者アンケートでは、地域包括支援センターに関する認知度が3割未満であったことなどから、平成22年度に、地域包括支援センターを周知するためのパンフレットを市内全戸配布しました。
課 題	高齢者アンケートの結果では、地域包括支援センターについて、「内容を知っていた」が22.0%「名前を聞いたことがある」が38.8%で、平成19年度の調査より認知度は上がっているものの、さらなる周知が必要です。
	高齢者人口の増加に加えて、認知症高齢者、ひとり暮らし高齢者や高齢者のみの世帯の増加に対応していくために、地域包括支援センターの専門性をさらに強化する必要があります。
	地域包括支援センターを中心に、高齢者のニーズに応じた医療・介護・福祉サービス等の社会資源を適切にコーディネートするため、地域でのネットワーク構築の機能の充実を図っていく必要があります。

地域包括支援センター等の認知度（高齢者アンケート 問23 抜粋）
「地域包括支援センター」では、「内容を知っていた」が22.0%、「名前は聞いたことがある」が38.8%と約6割がその存在を知っているとの回答でした。

総数=2,363

単位：%



3. 日常生活圏域別の現状

(1) 日常生活圏域別の高齢者人口等

市では、第3期介護保険事業計画から、市内を日常生活の圏域に分け、「西圏域」「中央西圏域」「中央東圏域」「東圏域」の4つの日常生活圏域を定め、圏域ごとの中核拠点として、地域包括支援センターを設置しました。平成23年4月1日現在、各圏域の高齢者人口等の現状は、以下のとおりとなっています。

平成23年4月1日現在

	西圏域	中央西圏域	中央東圏域	東圏域	合計
65歳以上の人口	6,693人	9,703人	10,718人	9,912人	37,026人
高齢化率	21.1%	19.8%	22.2%	18.2%	20.2%
75歳以上の高齢者の割合	9.4%	9.8%	10.9%	8.9%	9.7%
要介護等認定率	14.6%	16.9%	14.8%	13.7%	15.0%
地域包括支援センター	けやきの郷 たかの台出張所	小川ホーム 四小通り出張所	多摩済生ケアセンター 多摩済生ケアセンター 喜平橋出張所	小平健成苑 小平健成苑 花小金井出張所	
町名	栄町1～3丁目 中島町 小川町1丁目 たかの台 津田町1丁目 上水新町1～3丁目 上水本町1丁目	小川西町1～5丁目 小川東町1～5丁目 小川東町 小川町2丁目 津田町2～3丁目 学園西町1～3丁目 上水本町2～6丁目	美園町1～3丁目 大沼町1～2丁目 仲町 学園東町1～3丁目 学園東町 喜平町1～3丁目 上水南町1～4丁目	花小金井1～6丁目 天神町1～2丁目 鈴木町1～2丁目 花小金井南町1～3丁目 回田町 御幸町	

(2) 基本チェックリストの回答結果から見た各圏域別の状況

市では、生活機能の低下による介護予防の必要性を判定するため、毎年、要介護・要支援認定者を除く65歳以上の高齢者に対して、25項目の問診票である基本チェックリストの送付・回収と医師による生活機能検査を実施してきました。

第5期介護保険事業計画策定に当たっては、日常生活圏域ごとに地域の課題等をよりの確に把握するために、従来の基本チェックリストの項目に22項目の調査項目を追加して、圏域ごとの実態把握に努めました。(様式は、36ページ・37ページ参照)

回収した基本チェックリスト回答結果から、各圏域の状況が以下のようにみられました。なお、回答結果の分析は、平成23年3月31日までに返送された回答をもとに行っています。

	西圏域	中央西圏域	中央東圏域	東圏域	合計
送付件数	5,577	8,101	9,066	8,566	31,310
回答件数	4,201	6,098	6,807	6,450	23,556
回答率	75.3%	75.3%	75.1%	75.3%	75.2%
生活機能低下傾向に該当 (1~20のうち10以上該当)	216 5.1%	354 5.8%	359 5.3%	395 6.1%	1,324 5.6%
運動器機能低下に該当 (6~10のうち3以上該当)	659 15.7%	1,017 16.7%	1,145 16.8%	1,071 16.6%	3,892 16.5%
要栄養状態改善に該当 (11,12に該当)	52 1.2%	66 1.1%	83 1.2%	69 1.1%	270 1.1%
口腔機能低下に該当 (13~15のうち2以上該当)	693 16.5%	992 16.3%	1,112 16.3%	1,090 16.9%	3,887 16.5%
閉じこもり傾向に該当 (16,17に該当)	168 4.0%	266 4.4%	273 4.0%	286 4.4%	993 4.2%
認知機能低下に該当 (18~20のうち1以上該当)	1,026 24.4%	1,570 25.7%	1,742 25.6%	1,720 26.7%	6,058 25.7%
うつ傾向に該当 (21~25のうち2以上該当)	848 20.2%	1,338 21.9%	1,522 22.4%	1,414 21.9%	5,122 21.7%
ひとり暮らし	506 12.0%	1,041 17.1%	1,123 16.5%	952 14.8%	3,622 15.4%
高齢者のみの世帯	1,753 41.7%	2,533 41.5%	2,760 40.5%	2,566 39.8%	9,612 40.8%
週1回以上通院している	194 4.6%	371 6.1%	371 5.5%	396 6.1%	1,332 5.7%
地域活動に参加している	1,586 37.8%	1,497 24.5%	1,557 22.9%	1,423 22.1%	6,063 25.7%
外出を控えている	505 12.0%	804 13.2%	886 13.0%	843 13.1%	3,038 12.9%
何かあったとき、家族・友人等に相談していない	235 5.6%	352 5.8%	426 6.3%	373 5.8%	1,386 5.9%

(3) 各圏域の特徴と課題

西圏域

高齢化率は21.1%で4圏域の中で2番目に高くなっていますが、要介護等認定率は14.6%と2番目に低くなっています。

調査結果から以下の特徴がみられました。

- ア．一般的な生活機能の低下や運動器機能の低下に該当する方が他の圏域に比べ少なくなっています。また、地域活動に参加している方も多いことから、年齢を重ねても体力的に元気な方が多いことがうかがえます。
- イ．世帯の特徴としては、ひとり暮らしの方の割合が最も低くなっていますが、高齢者のみの世帯の割合が高くなっています。

(課題)

高齢者のみの世帯の割合が高くなっていることから、今後、ひとり暮らしの方の割合が増えることが予想されるため、見守り施策等の充実が今後の課題となります。

中央西圏域

高齢化率は19.8%で2番目に低くなっていますが、75歳以上の高齢者の割合は9.8%と2番目に高く、要介護等認定率は16.9%と最も高くなっています。

調査結果から以下の特徴がみられました。

- ア．ひとり暮らしの方の割合が4圏域で最も高く、高齢者のみの世帯の割合が2番目に高くなっています。
- イ．週1回以上通院している方の割合も高くなっています。

(課題)

古くからある都営住宅等の大規模集合住宅がこの圏域に多いことから、75歳以上の高齢者の割合が高いと考えられます。週1回以上通院している方の割合が高く、医療的なケアを必要とされる方が多いことから、医療と介護の連携を進めていくことが課題となります。

中央東圏域

高齢化率が 22.2%、75 歳以上の高齢者の割合が 10.9%と他の圏域に比べ最も高く、要介護等認定率は 14.8%と 2 番目に高くなっています。

調査結果から以下の特徴がみられました。

ア．運動器機能低下及びうつ傾向に該当する方の割合が 4 圏域の中で最も高くなっています。

イ．地域活動に参加している方の割合が 2 番目に低く、何かあったときに家族や友人等に相談している方の割合が最も低くなっています。

ウ．ひとり暮らしの方の割合が 2 番目に高くなっています。

(課題)

地域での交流の場を増やすために、介護予防教室等への参加促進が求められます。また、身近に相談などを受け付ける体制の整備が必要です。さらに、ひとり暮らし高齢者の割合が高いことから、成年後見制度等の権利擁護施策の充実が求められます。

東圏域

高齢化率、75 歳以上の高齢者の割合、要介護等認定率が 4 圏域の中で最も低い圏域となっています。

調査結果から以下の特徴がみられました。

ア．全般的な生活機能の低下、口腔機能低下、認知機能の低下の項目で該当する方の割合が最も高くなっています。

イ．地域活動に参加している方の割合が最も低くなっています。

(課題)

現在は他の圏域と比べ、要介護等認定率が低く出ていますが、全般的な生活機能の低下、口腔機能低下、認知機能の低下の項目で該当する方の割合が最も高くなっており、今後、他の圏域と同様に要介護等認定率が高くなる可能性があるため、早い段階から介護予防の周知・啓発を図っていく必要があります。

基本チェックリスト

番号	質問事項	回答(いずれかに お付けください。)	
1	バスや電車で1人で外出していますか	0 . はい	1 . いいえ
2	日用品の買物をしていますか	0 . はい	1 . いいえ
3	預貯金の出し入れをしていますか	0 . はい	1 . いいえ
4	友人の家を訪ねていますか	0 . はい	1 . いいえ
5	家族や友人の相談にのっていますか	0 . はい	1 . いいえ
6	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	0 . はい	1 . いいえ
7	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	0 . はい	1 . いいえ
8	15分位続けて歩いていますか	0 . はい	1 . いいえ
9	この1年間に転んだことがありますか	1 . はい	0 . いいえ
10	転倒に対する不安は大きいですか	1 . はい	0 . いいえ
11	6ヶ月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	1 . はい	0 . いいえ
12	身長と体重の値をご記入ください(大体の値で結構です)	身長	cm 体重 kg
13	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	1 . はい	0 . いいえ
14	お茶や汁物等でむせることがありますか	1 . はい	0 . いいえ
15	口の渇きが気になりますか	1 . はい	0 . いいえ
16	週に1回以上は外出していますか	0 . はい	1 . いいえ
17	昨年と比べて外出の回数が減っていますか	1 . はい	0 . いいえ
18	まわりの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあるといわれますか	1 . はい	0 . いいえ
19	自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	0 . はい	1 . いいえ
20	今日が何月何日かわからない時がありますか	1 . はい	0 . いいえ
21	(ここ2週間) 毎日の生活に充実感がない	1 . はい	0 . いいえ
22	(ここ2週間) これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった	1 . はい	0 . いいえ
23	(ここ2週間) 以前は楽にできていたことが今ではおっくうに感じられる	1 . はい	0 . いいえ
24	(ここ2週間) 自分が役に立つ人間だと思えない	1 . はい	0 . いいえ
25	(ここ2週間) わけもなく疲れたような感じがする	1 . はい	0 . いいえ
26	(身長・体重の値が未記入の場合のみお答えください) あなたの体型を教えてください	肥満傾向	ふつう
		やせ傾向	

番号	質問事項	回答(いずれかに おお付けください。)		
27	あなたの普段の生活状況を教えてください。	在宅(自立)	在宅 (介護が必要)	施設・病院等 に入所中
28	在宅の場合、ご自分を含めて何人で暮らしていますか(施設・病院等に入所中の方は、記入不要)	人		
29	65歳以上の方のみで暮らしていますか	はい	いいえ	
30	同居されている方がいる場合、同居されている方はどなたですか(複数回答可)	配偶者	息子・娘	息子・娘の 配偶者
		孫	兄弟・姉妹	その他
31	普段、ご自分で健康だと思いますか	とても健康	まあまあ健康	
		あまり健康でない	健康でない	
32	かかりつけ医はいますか	はい	いいえ	
33	治療中の病気はありますか	ある	ない	
34	治療中の病気がある場合は、具体的にあてはまるものを選んでください(複数回答可)	高血圧	心臓病	脳卒中
		糖尿病	肺・気管支の病気	胃・腸の病気
		肝臓病	腎臓病	骨粗しょう症
		関節炎・膝痛など	リウマチ	がん
		うつ	認知症	その他
35	(通院している方のみ)その頻度は次のどれですか	週1回以上	月2～3回	
		月1回程度	月1回未満	
36	地域活動に参加していますか	参加している	参加していない	
37	地域活動に参加している場合、具体的にあてはまるものを選んでください(複数回答可)	祭り・行事	自治会・町内会	サークル・ 自主グループ
		老人クラブ	その他	
38	外出を控えていますか	はい	いいえ	
39	外出を控えている場合、理由は次のどれですか(複数回答可)	病気	体の麻痺など	足腰などの痛み
		聴力の低下	視力の低下	トイレの心配
		外での楽しみが無い	経済的に出られない	住宅環境の問題
40	外出の頻度はどのくらいですか	ほぼ毎日	週4、5日	週2、3日
		週1日	週1日未満	
41	杖を使っていますか	はい	いいえ	
42	歯磨きを毎日していますか	はい	いいえ	
43	定期的に歯科検診を受けていますか	はい	いいえ	
44	薬を管理してきちんと内服することができますか	はい	いいえ	
45	年金などの書類がかけますか	はい	いいえ	
46	請求書の支払いをしていますか	はい	いいえ	
47	何かあったときに、家族や友人・知人などに相談をしていますか	はい	いいえ	